

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 15章 12-34 節>

1 当時のユダヤ人にとっても驚きの出来事だったイエス様の復活。

初めに言うておくことがあります。イエス様の復活の出来事は当時のユダヤ人にとっても想定外の出来事だったということです。確かに旧約聖書の中にこのことを予示しているとされる箇所はありますが、それはこの出来事の後に聞き取られたと言ってもよく、神の民の中でも復活のある無しについては意見が分かれていました(サドカイ人は無しと)。よって私たちはこの出来事がそれまでの神の民イスラエルの歴史の延長線上に乗るものであるかをよく検討する必要があります。

2 (12-19) 第一の意味：罪からの救い出し(17)。「福音」(1-2, 9-10)。

パウロがイエス様の復活から聞き取ったことの一つ目は、それによって「私たちの罪を神様が赦して下さった」ことを知ったということです。ここで「罪」とは、私たちが代表する人々の神の子殺しを指すと共に、神に向いて生きていない人間の姿を指します(罪の原意)。よってパウロは、神の方に向き直して生きることが赦されたことを喜び、福音(1-2)、神の恵み(9-10)、罪からの救い出し(17)と呼んでいるのです。選びの民イスラエルが罪を重ねても決して見捨てない旧約聖書の神にふさわしい深い救いの内容、救い方と言えるのではないのでしょうか。

3 (20-34) 第二の意味：私たちの復活の初穂(20)。今の生にも影響。

次にパウロは、イエス様の復活は私たちにも復活が用意されていることを示す出来事だと言います(20)。このことには、神様がアダムに命を与えられたのに人間の罪によって死が訪れた最初の出来事が考えられています。それ故に、今度は、神様が御子によって人の罪が打ち破られた(赦された)のだから、死も滅ぼされるのだ、と(26)。パウロは、それはいつ起こるのかについては述べていませんが、その時にはすべてのものが神に服従すると述べています(27-28)。つまり、神様がすべてを服従させられる時が到来し、その時に私たちも復活するのだと(26)。世界を造られた神様の最初から考え、御子を与えて下さった神様の世界の完成を考える線に、これらの考え方はよく適っているのではないのでしょうか。聖書の神様を知り、その神様の恵みにお応えして生きて行くことが人生の目的になったときに、人生は空しいものではなくなるのです。